

ケーススタディ:ファッションセンターしまむら

資料編 《沿革》

1953年	埼玉県 <small>の北西部</small> 小川町にて営業していた島村呉服店を株式会社として設立。
1957年	セルフサービスを導入、総合スーパーストアへ。
1961年	店舗数 6 店舗。本社業務を東松山に移し、本社集中管理制度を確立。 セントラルバイイング制を採用し、チェーン化への基礎を作る。
1972年	「株式会社しまむら」へ社名を変更。
1975年	埼玉県北西部から多店舗化へ離陸。コンピュータを導入し独自のシステム開発を開始。
1976年	しまむら店舗数 9 店舗。埼玉県外への発展を志向して、群馬県への出店を開始する。
1978年	全社オンラインによるネットワークを構築。埼玉・群馬・東京・千葉・栃木県に出店。
1981年	商品管理のデータベース化と単品管理の実施。
1982年	しまむら店舗数 41 店舗。大宮市(現さいたま市)に本社を移転。
1984年	しまむら店舗数 54 店舗。川口市に総合物流機能を集約した商品センターを完成させ、独自の納品検収システムを確立。
1986年	しまむら店舗数 82 店舗。新定時社員制度(M社員制度)を導入。
1987年	しまむら店舗数 96 店舗。全品バーコード化と伝票レスによる管理システムを完成稼動。
1988年	東京証券取引所第二部上場。東北地方への出店を志向して、福島県に出店を開始。大宮市(現さいたま市)に 250 店舗体制に向けて新商品センターを建設し川口市より移転。
1989年	しまむら店舗数 109 店舗。
1990年	しまむら店舗数 160 店舗。全国展開を志向し、新潟県・長野県への出店を開始。
1991年	しまむら店舗数 193 店舗。東京証券取引所第一部上場。 岡山県へ出店し、中国・四国地方への出店を開始
1993年	しまむら店舗数 270 店舗。東北地方をカバーする福島商品センターを建設稼動。
1994年	しまむら店舗数 316 店舗。営業収益 1,000 億円突破。

	山陰・山陽・四国を対象とする岡山商品センター、中部地方を対象とする犬山商品センターを建設稼働。
1996年	新業態として若年層をターゲットとする株式会社アベイルを設立
1997年	しまむら店舗数 506 店舗。ヤングカジュアルの専門店「アベイル」を出店開始。海外への店舗展開を目指し、台湾桃園市に思夢楽股分有限公司を設立。福岡県へ出店し、九州地方への出店を開始。
1998年	しまむら店舗数 577 店舗。しまむらグループとして今後の業務拡大と効率追求に対処するための新本社ビル完成。台湾中北部に「流行服飾館思夢楽」を開店。
1999年	しまむら店舗数 651 店舗。営業収益 2,000 億円突破。店舗及びサプライヤーコードの変更を実施し、しまむらグループとして 1,000 店舗体制のシステムを構築。大宮商品センターに変わる、超自動化、大型の桶川商品センターを建設、移転。
2000年	グループ期末店舗数。－しまむら 728・アベイル 28・バースデイ 3・シャンブル 2・思夢楽 17－。北海道へ出店を開始。盛岡・北九州に商品センターを開設し、全国体制での物流網を整備。新業態として、服飾雑貨の専門店「シャンブル」、ベビー・トドラー用品の専門店「バースデイ」を出店開始。
2002年	沖縄県へ出店を開始。全国 47 都道府県への展開となる。
2003年	会社設立 50 周年。関ヶ原に商品センターを開設。しまむらグループ 1,000 店舗突破。
2006年	しまむら 1,000 店舗突破。
2007年	秦野に商品センターを開設。
2008年	しまむらグループ 1,500 店舗突破。バースデイ 100 店舗突破。
2009年	株式会社アベイルと合併。しまむらグループ 1,600 店舗突破。
2010年	しまむら 1,200 店舗突破。
2011年	神戸に商品センターを開設。中国上海市に飾夢楽（上海）商貿有限公司を設立。しまむらグループ 1,700 店舗突破。
2012年	中国上海市に「飾夢楽」を開店。しまむらグループ 1,800 店舗突破。